

令和5年度

事業・決算報告書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

- I. 事業報告
- II. 決算報告(計算書類)

社会福祉法人

真光会

目 次

I 事業報告

1. 概 要	1
2. 事業実施状況.....	4
(1) 会務の運営.....	4
(2) 役員及び評議員の状況（令和6年3月31日現在）	5
(3) 令和5年度実施事業等	6
3. 施設福祉部	8
(1) 令和5年度 特別養護老人ホーム三和荘事業報告	8
(2) 短期入所生活介護利用状況.....	11
(3) 令和5年度 月別行事報告.....	13
4. 在宅福祉部	14
(1) 三和荘通所介護事業所	14
(2) グループホーム三和の呂.....	16
(3) 三和荘訪問介護事業所	18
(4) 三和荘居宅介護支援事業所.....	19
(5) 地域包括支援センター	21
(6) 三和荘ケアハウス.....	24
(7) グループホーム出水.....	26
(8) デイサービスセンター出水.....	28
(9) 三和苑デイサービスセンター	31
5. 事務部.....	34
6. 災害対策・安全衛生管理・設備保守点検.....	36
7. 職員研修の状況	37
(法人決算報告書)	44
1. 財産目録（別紙4）	44
2. 法人単位資金収支計算書（第一号第一様式）	46
3. 法人単位事業活動計算書（第二号第一様式）	47
4. 法人単位貸借対照表（第三号第一様式）	48
5. 社会福祉事業区分資金収支内訳表（第一号第三様式）	49
6. 社会福祉事業区分事業活動内訳表（第二号第三様式）	50
7. 社会福祉事業区分貸借対照表内訳表（第三号第三様式）	51
8. 計算書類に対する注記（法人全体）（別紙1）	52
9. 補助金事業等収益明細書（別紙3(㉓)）	55

10.	事業区分間及び拠点区分間繰入金明細書（別紙3(④)）	57
11.	基本金明細書（別紙3(⑥)）	58
12.	国庫補助金等特別積立金明細書（別紙3(⑦)）	59
	（三和荘拠点区分決算報告書）	60
13.	三和荘拠点区分資金収支計算書（第一号第四様式）	60
14.	三和荘拠点区分事業活動計算書（第二号第四様式）	63
15.	三和荘拠点区分貸借対照表（第三号第四様式）	66
16.	計算書類に対する注記（拠点区分）（別紙2）	67
17.	基本財産及びその他の固定資産（有形・無形固定資産）の明細書（別紙3(⑧)）	70
18.	引当金明細書（別紙3(⑨)）	71
19.	三和荘拠点区分事業活動明細書（別紙3(⑩)）	72
20.	積立金・積立資産明細書（別紙3(⑫)）	73
	（三和荘ケアハウス拠点区分決算報告書）	74
21.	三和荘ケアハウス拠点区分資金収支計算書（第一号第四様式）	74
22.	三和荘ケアハウス拠点区分事業活動計算書（第二号第四様式）	76
23.	三和荘ケアハウス拠点区分貸借対照表（第三号第四様式）	78
24.	計算書類に対する注記（拠点区分）（別紙2）	79
25.	基本財産及びその他の固定資産（有形・無形固定資産）の明細書（別紙3(⑧)）	81
26.	引当金明細書（別紙3(⑨)）	82
27.	積立金・積立資産明細書（別紙3(⑫)）	83
	（出水拠点区分決算報告書）	84
28.	出水拠点区分資金収支計算書（第一号第四様式）	84
29.	出水拠点区分事業活動計算書（第二号第四様式）	86
30.	出水拠点区分貸借対照表（第三号第四様式）	88
31.	計算書類に対する注記（拠点区分）（別紙2）	89
32.	基本財産及びその他の固定資産（有形・無形固定資産）の明細書（別紙3(⑧)）	92
33.	引当金明細書（別紙3(⑨)）	93
34.	出水拠点区分事業活動明細書（別紙3(⑩)）	94
35.	積立金・積立資産明細書（別紙3(⑫)）	96
	（三和苑拠点区分決算報告書）	97
36.	三和苑拠点区分資金収支計算書（第一号第四様式）	97
37.	三和苑拠点区分事業活動計算書（第二号第四様式）	99
38.	三和苑拠点区分貸借対照表（第三号第四様式）	101
39.	計算書類に対する注記（拠点区分）（別紙2）	102
40.	基本財産及びその他の固定資産（有形・無形固定資産）の明細書（別紙3(⑧)）	105
41.	引当金明細書（別紙3(⑨)）	106
42.	三和苑拠点区分事業活動明細書（別紙3(⑩)）	107
43.	積立金・積立資産明細書（別紙3(⑫)）	109

I 事業報告

1. 概 要

(1) 当法人では、その使命・理念・基本方針の下、昨年度の努力目標に沿い、かつ「個別対応」「尊厳の重視」「自立支援」という介護・福祉の原点に立ち、職員一丸となって地域福祉の向上に努めてまいりました。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類へと移行しましたが、高齢者にとってはまだまだ危険なウイルスであることから、新型コロナウイルス感染症の予防対策はこれまで通り継続しました。その一方で、ご利用者や地域の方々にできるだけ喜んでいただきたい、より充実した日常を過ごしていただきたいとの思いから、感染対策を行いながらできるだけ様々な行事を再開していくこともできました。法人主催の行事としても、秋祭りの再開までは叶いませんでしたが、地域の方々の参加型のイベントとして地域交流会を開催することができ、久しぶりに多くの方々に三和荘まで来ていただくことができました。グラウンドゴルフ大会や凧揚げ大会なども、規模を縮小しながらではありますが、再開することができました。各事業所においても、事業所内での行事はもちろん、事業所外での行事もだいぶコロナ禍前と同じように行うことができました。次年度は法人の秋祭りの再開など、よりコロナ禍前の状況に戻すことができ、よりご利用者や地域の方々に喜んでいただけたらと思っています。

介護人材が不足する状況は続いています。就職フェアやインターネット等を活用した採用活動により、次年度の新卒者を3名採用することができました。定着・育成ができるように、職員全員でフォローして参ります。

(2) 施設福祉部（特別養護老人ホーム）では、令和5年度も従来から行っている自立支援・おむつに頼らないケア・認知症ケア・経口維持支援・看取り・多職種連携の6つの中心的なケアを継続しつつ、サービスの質の向上に努めました。

ご利用者の約半数が90歳以上、ご利用者の平均要介護度は4.1となっており、特養の高齢化・重度化は進んでいます。そのような中、取り組み開始から5年目のノーリフティングケアのおかげで、職員の身体的負担の軽減やご利用者の拘縮等の二次障害予防ができています。新人職員や外国人技能実習生にも指導・確認が出来ており、また、ご利用者にあった福祉機器を使用することが定着し、ご利用者・職員共に身体の負担軽減に繋がっています。10月には労働局長がノーリフティングケアの現場視察に来られ、マスコミの取材を受けるなど、一定の評価も得ています。他施設からの現場視察の機会も増えています。次年度も更に発展させていきたいと思っています。

看取りについては、令和5年度は5名の方を看取ることができました。昨年度同様、24時間の日課表を作成し多職種連携で看取りケアに取り組みました。新型コロナウイルス感染症の予防に協力を得ながらの面会でしたが、「三和荘に入所して過ごすことが出来て良かった」とのお言葉をご家族からいただくこともでき、最期の時までご家族の思いに寄り添えることができたのではないのでしょうか。

令和5年度は、年度末の3月に新型コロナウイルス感染症のクラスターを発生

させてしまい、ご利用者16名、職員5名が罹患してしまいました。ただ、前年度のクラスターを教訓とし、早めにゾーニング等の対応を行ったことで、2週間程で収束させることができました。年間行事も、感染予防の観点からご家族の参加は控えていただきましたが、家族会（6月と12月）の後に行事の様子をZoomでライブ中継したり、後日動画配信したりして観ていただくようにしました。昨年度実施できなかった外出行事や荘内行事も、感染対策を行いながらほぼ例年通り実施することができ、ご利用者の満足度の向上にも繋がったと思います。

看護職を中心に「褥瘡0（ゼロ）」を目指して多職種で取り組み、褥瘡の改善に努めましたが、新型コロナウイルス感染症や体調不良などでベッド上での生活が長くなった方を中心に褥瘡の発生が見られました。なかなか「褥瘡0」を達成することができていませんが、今後も褥瘡防止委員会を中心に話し合い、褥瘡ケアについて周知徹底を図ります

特養の利用率については、前年度の新型コロナウイルス感染症のクラスターの影響が続き、12月まで95%を超えることができなかつた影響が大きく、年間平均で91%と低調でした。誤嚥性肺炎や尿路感染症での入院もありましたが、長期入院にならないようにこまめに病院の連携室との連携を図り、情報の収集を行うことで早期退院に努めました。

ショートステイの利用率は、新型コロナウイルス感染症予防のために新規利用を控えたこと、また自事業所だけでなく、他事業所で発生した新型コロナウイルス感染症クラスターにより利用を制限したことにより、平均15%となりました。今後も感染症等の情報を収集しながら、居宅介護支援事業所との良好な関係作りにも努め、利用率の回復に努めていきます。

令和4年度に受け入れた外国人技能実習生は順調に指導・育成ができ、介護職員として独り立ちして業務ができるようになりました。今後も、日本語の指導に力を入れていきつつ、長く三和荘で働いてもらえるような環境を作っていきたいと思えます。

- (3) 在宅福祉部も、令和5年度も新型コロナウイルス感染症の予防策に力を入れながらの業務でした。コロナ禍の利用控えは徐々に解消しつつありますが、コロナ禍の期間で心身機能が低下した高齢者が多くいらっしゃり、その回復にも努めました。在宅福祉部の全事業所が、業務改善やICTの活用を意識しつつ取り組んだ一年でした。

地域包括支援センター（ささえりあ三和）への相談件数は約5800件あり、昨年度より1300件増えています。内容としては介護保険の申請についてが最も多く、昨年より700件増加し約4200件でした。今年度の特徴として、高齢者虐待や成年後見制度など権利擁護の問い合わせが増えています。高齢者虐待対応の件数は13件と倍増しています。地域住民やサービス事業所の各機関の方々が通報や相談を適切にされている成果と受け取れます。また、ささえりあが関わる研修や意見交換会はコロナ禍ではリモート開催でしたが、令和5年度から集合開催になりました。地域行事や元気クラブ等の活動はコロナ禍前のように活発になってきています。

居宅介護支援事業所は、今年度もACP（アドバンス・ケア・プランニング）に

ついて学び、スキルアップに努めました。研修会への参加の他、県民講座へケアマネジャーを代表して登壇するなど、専門職として成果を発揮した一年でした。担当件数は3人合計105件前後と目標の120件前後には及びませんでした。対応困難なケースを複数抱えており、専門性の高さの向上に今後も努めてまいります。

ケアハウスは、退所後の空床を埋めるのに苦勞し、なかなか満床にすることができませんでした。次年度は、広報活動に力を入れていきます。また、ご利用者の高齢化に伴い認知症の方も増えていますので、対人援助技術において専門性の高い対応力を身につけることが今後の課題です。

訪問介護事業所は、職員の高齢化が進んでいますが、皆で協力してカバーする良い関係を築けました。また、サービスの質を高めるために、事業所内で介護保険についての理解を深めるために勉強会等を行いました。

グループホームは、2事業所ともに業務改善やICTの活用に入れました。また、職員間の力量の差を縮めることや、チームワークの向上に取り組みましたが、満足できる結果は得られませんでした。

デイサービスは、三和苑デイで新型コロナウイルス感染症の影響で一時的にご利用者数が減ったのを除き、3事業所とも年度の後半にかけて利用率を上げることができていますので、その流れを次年度に繋げたいと思います。各事業所で困難なケースも増えていますが、職員間で協力して対応することが出来ています。3事業所とも業務改善・ICT化に取り組み、効率化で生じた時間をご利用者に対するサービスの質として還元できるように努めました。

以上のような取り組みにも拘わらず、在宅サービスの利用率については、令和5年度もコロナ禍の影響もあり、ほとんどの事業所で目標値を達成できませんでした。入所系のグループホームは2事業所とも目標値(95%)を超えることができませんでしたし、通所系の3事業所も目標値(85%)を超えることができませんでした。しっかりと原因を分析して、次年度の改善に繋げていきたいと思えます。

2. 事業実施状況

(1) 会務の運営

ア 理事会の開催

第1回 理事会（令和5年5月24日 於 三和荘）

議 題

- 1 理事長専決事項の報告について
- 2 令和4年度熊本市実地指導結果について
- 3 令和4年度事業報告及び決算報告について
- 4 令和4年度事業及び決算報告に関する監事監査結果について
- 5 次期理事及び監事候補について
- 6 評議員会の招集について

第2回 理事会（令和5年6月22日 於 三和荘）

議 題

- 1 理事長の選任について
- 2 令和5年度予算の補正について
- 3 第三者委員の選任について
- 4 評議員候補者の推薦について
- 5 評議員選任・解任委員会の招集について
- 6 運営規定の改定について

第3回 理事会（令和5年10月23日 於 三和荘）

議 題

- 1 理事長専決事項及びその他の事項の報告について
- 2 令和5年度予算の補正について
- 3 運営規定の改定について
- 4 就業規則の改定について
- 5 グループホーム三和苑事業所の廃止について

第4回 理事会（令和5年11月22日 決議の省略）

議 題

- 1 令和5年度予算の補正について

第5回 理事会（令和6年3月18日 於 三和荘）

議 題

- 1 理事長専決事項の報告とその他の事項の報告について
- 2 令和5年度予算の補正について
- 3 給食業務委託契約の更新について
- 4 職員の定年延長について
- 5 就業規則の改定について
- 6 運営規定の変更について
- 7 令和6年度事業計画と予算について

イ 評議員会の開催

定時 評議員会（令和5年6月22日 於 三和荘）

- 1 令和4年度事業報告及び決算報告について
- 2 令和4年度事業及び決算報告に関する監事監査結果について
- 3 役員を選任について

ウ 監事監査の実施

会計監査：令和5年5月10日 10：00～

業務監査：令和5年5月10日 14：00～

(2) 役員及び評議員の状況（令和6年3月31日現在）

ア 役員

役職	氏名	当初就任日	就任日	備考
理事長	吉田 精華	2008.5.17	2023.6.22	
理事	後藤 道彌	2003.1.1	2023.6.22	
理事	森 章三	2005.9.22	2023.6.22	
理事	荒木 哲美	2010.5.27	2023.6.22	
理事	吉田 睦子	2017.4.1	2023.6.22	
理事	後藤 卓爾	2021.4.1	2023.6.22	三和荘施設長
監事（業務）	伊藤 圭子	2018.7.1	2023.6.22	
監事（会計）	戸田 強	2016.3.18	2023.6.22	

（理事・監事任期：令和5年6月22日
～令和7年度6月定時評議員会の終結時）

イ 評議員

役 職	氏 名	当初就任日	就任日	備 考
評議員	加 藤 晃	2009. 9. 22	2021. 6. 15	
評議員	大津山壽奈子	2014. 5. 23	2021. 6. 15	
評議員	東 道 夫	2015. 5. 21	2021. 6. 15	
評議員	大 野 敏 子	2017. 4. 1	2021. 6. 15	
評議員	藤 井 美 千 代	2021. 6. 15	2021. 6. 15	
評議員	篠 原 美 保	2021. 6. 15	2021. 6. 15	
評議員	江 藤 慈	2023. 6. 26	2023. 6. 26	

(評議員任期：令和3年6月15日
～令和7年6月定時評議員会終結時)

(3) 令和5年度実施事業等

- 4月3日 4月1日採用者 辞令交付式
- 5月1日 三和荘永年勤続者表彰 (20年2名 10年5名)
- 5月10日 業務監査 会計監査
- 5月22日 三和荘 空調設備室外基盤取替整備工事 (3,080,000円)
- 5月24日 理事会
- 6月11日 特別養護老人ホーム三和荘 父母の会
- 6月22日 評議員会
- 6月22日 若草幼稚園慰問 (三和荘デイサービスセンター)
- 6月26日 評議員選任解任委員会
- 6月29日 理事長登記・財産登記
- 7月19日 グループホーム三和の邑消防署立入調査
- 7月24日 4町内子供会ラジオ体操芝生広場利用 (~28日)
- 8月7日 熊本市地域包括支援センター受託者選定のための公募
参加表明書提出
- 8月23日 特別養護老人ホーム三和荘 喀痰吸引研修開始
- 9月1日 熊本市地域包括支援センター公募
事業計画書及び関係書類提出
- 9月8日 熊本県 「gोकまモンナビ」の撮影
- 9月9日 城山老心会馬追慰問
- 9月10日 特別養護老人ホーム三和荘 敬老会
- 9月17日 電気保安点検
- 9月19日 高卒採用選考試験
- 9月25日 消防訓練
- 9月27日 技能実習生外部監査
- 10月2日 10月1日採用者 辞令交付式
熊本労働局労働安全衛生週間パトロール
- 10月4日 熊本市地域包括支援センター選考にかかるヒアリング
- 10月6日 専門学校卒採用選考試験
- 10月13日 特別養護老人ホーム三和荘 ノーリフティングケア見学

ユートピア 4名

- 10月17日 労働局訪問
- 10月19日 特別養護老人ホーム三和荘 施設見学受入
特別養護老人ホーム琴平本町
- 10月21日 福祉の就職総合フェア 出展
- 10月23日 理事会
- 11月2日 フィールドスタディ受入 尚綱高等学校
- 11月8日 更生保護事業功労者顕彰
- 11月9日 城北高校へノーリフティングケアの出張授業
- 11月12日 地域交流会
- 12月10日 特別養護老人ホーム三和荘 餅つき忘年会
- 3月4日 三和荘通所介護事業所 浴室給湯管改修工事 (970,200円)
～7日
- 3月10日 マイナビ2025 就職セミナー 出展
- 3月18日 理事会
特別養護老人ホーム三和荘
熊本県知事選挙 不在者投票
- 3月28日 消防訓練

3. 施設福祉部

(1) 令和5年度 特別養護老人ホーム三和荘事業報告

① ご利用者一人ひとりに優しく接し、誰が聞いても気持ちの良い言葉遣いを心がけます

昨年度に引き続き、三和荘接遇マニュアルを基に、身だしなみ、言葉遣い、挨拶、態度、表情について、接遇委員会で2カ月に1回の目標(スローガン)を掲げ、取り組みを行った。接遇委員会の中で勉強会の教材を決め、グループ会議の中で、接遇やアンガーマネジメントについて等の動画を視聴し、不適切ケアについて学び、一人一人が意識を持ち気持ちの良い言葉遣いを心掛けることが出来た。熊本弁でも「です」「ます」を付けることにも、気が付けることができた。ご利用者の整容については、月2回整容週間を設け、チェックシートを活用し行うことが出来た。昨年度に比べると職員が意識して行うことができたが、実施する職員に偏りがあるのは改善できず、未だ課題として残っている。

ショートステイ利用時には、安心して生活していただけるように配慮し、一人一人に合った支援を行うことが出来た。自立支援や個別機能訓練については、生活リハビリを中心に、在宅へスムーズに戻っていただけるように支援出来た。

② ノーリフティングケアの継続と、外国人技能実習生の指導に力を入れています。

全職員が、ノーリフティングケアの基本について理解し、習得できているかの再確認については、時間の捻出が難しくできなかったが、新人職員や外国人技能実習生への指導・確認等はできた。重度化予防の観点から、ご利用者の状態に応じて福祉用具を選定し、使用することが出来ており、職員の腰痛予防、ご利用者の拘縮等の二次障害予防に繋がっている。しかし、介護ロボットの種類への偏りが出てきており、時間のロスに繋がっているため、今後の検討課題として残っている。

新入職員に対し、エルダー・メンター制度を活用し、OJT研修を行い、指導・育成に努めたが、1名は入職してすぐに退職してしまった。1名については、業務習得を一つ一つ確認しながら育成することが出来、定着につながった。

③ 職員満足度向上のための休暇の取得を継続し、SNSを通じて、介護の魅力を発信します

常勤勤務者へのリフレッシュ休暇(3日連続有給休暇と公休とで連続5日休)の取得については、計画的に行うことが出来、全常勤勤務者が取得することができた。また、業務内容の見直しを行い、昨年度に比べ残業を減らすことはできた。しかし、土日の人員不足や、勤務状況に応じた職員間の労働の偏りはまだ残っており、今後の課題である。今年度は、ノーリフティングケア等の情報発信を新聞やテレビなどで行うことが出来た。インスタグラムも開設し、日常や行事の風景などをSNSにて情報発信を行ったが、誰が担当するのかが不明瞭だったため、定期的には発信できなかった。

④ 特養年間利用率95% ショートステイ年間利用率40%を目指します

今年度の特養の利用率は、平均91.0%で、95%を超えた月は令和5年12月～令和6年2月までの3ヶ月のみとなった。要因として、令和3年度に起こった新型コロナウイルス感染症のクラスターによる退所者の増加と、職員の人員不足により、新規入所の受け入れが出来ない状態が続いたためと考え

られる。ご利用者の健康管理については、昨年同様 37.5℃以上の発熱が見られた際には、感染隔離を行い施設内での抗原検査を行い対応した。重症化予防として、早期発見・早期治療に努めたが、誤嚥性肺炎や尿路感染症等による入院があった。長期入院にならないように小まめに病院の連携室と連携を図り、情報の収集を行い、早期退院に努めた。

ショートステイの利用率は、新型コロナウイルス感染症予防で新規利用を控えたこと、また他事業所での新型コロナウイルス感染症クラスター発生やご家族の新型コロナウイルス感染のため、利用を制限したことにより、平均 15%にとどまり、目標の達成には至らなかった。

ア 入所者年齢別内訳

令和 6 年 3 月 31 日現在

年齢	69歳以下	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳以上	合計(人)
男	1	1	0	2	3	3	1	0	11
女	0	1	4	1	11	15	7	0	39
計	1	2	4	3	14	18	8	0	50

平均年齢 88.3 歳

イ 地域別入所者内訳

熊本市 50 名 (特例入所者 0 名)

ウ 入所者身体状況

	全面介助	一部介助	認知症	入院者
男	2	10	11	0
女	14	25	38	1
計	16	35	49	1

車椅子使用者 43 名 手引き歩行 3 名 歩行器使用者 3 名
歩行自立 1 名 杖使用者 0 名

エ 要介護度別状況

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男	0	0	3	3	5	11
女	0	0	10	14	15	39
計	0	0	13	17	20	50
	0.0%	0.0%	26.0%	34.0%	40.0%	100.0%

平均要介護度
4.1

オ 入退所状況

	入所	退所
男	4	1
女	12	12
計	16	13

(2) 短期入所生活介護利用状況

令和5年度

	収容力(A)	延利用者数(B)	利用率(B)/(A)	実利用者数	特例利用者	
	(注1)	(注2)	(注3)	(注4)	延人数	実人数
R5年 4月	540	122	22.6%	18	0	0
5月	558	107	19.2%	19	0	0
6月	540	95	17.6%	17	0	0
7月	558	85	15.2%	17	0	0
8月	558	95	17.0%	15	0	0
9月	540	73	13.5%	16	0	0
10月	558	94	16.8%	15	0	0
11月	540	104	19.3%	18	0	0
12月	558	94	16.8%	16	0	0
R6年 1月	558	70	12.5%	14	0	0
2月	522	112	21.5%	13	0	0
3月	558	20	3.6%	8	0	0

注1:「収容力」=ショートステイ用に整備したベッド数×月の日数

注2:「延利用者数」とは1日あたりの利用者数を1ヶ月間積み上げた人数

注3:「利用率」小数点2位以下切り捨て

注4:「実利用者数」とは1ヶ月間に利用した人の実数

「特例利用者」の延人数とは1日あたりの特例利用者数を1ヶ月間積み上げた人数

「特例利用者」の実人数とは1ヶ月間の特例利用者の実数

	最多利用日の延利用者数	最小利用日の延利用者数
R5年 4月	7	1
5月	6	1
6月	5	1
7月	5	0
8月	5	0
9月	6	0
10月	5	1
11月	7	1
12月	7	0
R6年 1月	6	0
2月	5	2
3月	4	0

(3) 令和5年度 月別行事報告

月	日	行事名	参加人数	家族参加者数	ボランティア数
4	17	ミャンマーの伝統行事「水かけ祭り」	30	0	0
	25	高橋鯉のぼり見学ドライブ(中央グループ)	8	0	0
5	2	高橋鯉のぼり見学ドライブ(東グループ)	7	0	0
	25	ゆめmartにお買物	3	0	0
6	9	紫陽花見学「住吉神社」(東グループ)	9	0	0
	11	父母の会	45	0	0
	19	おやつ作り(フルーツクリーム・どら焼き)	14	0	0
7	18	「夏だ!!アイスクリームパーティーだ!!」	18	0	0
	19	「そうめん流し」	42	0	0
8	7	スイカ割り・かき氷	42	0	0
9	10	敬老会	50	0	0
10	15	東グループ運動会	16	0	0
	18	合同グループ新港ドライブ	8	0	0
11	10	合同グループ「秋だ!!魚だ!!寿司食いねえ」	8	0	0
	14	合同グループ「県庁ドライブイチョウ見学」	8	0	0
	20	東グループ「みかん山ドライブ」	8	0	0
12	10	餅つき・忘年会	50	0	0
	19	東グループ「クリスマス会(デザート作り)」	17	0	0

(4) 令和5年度 実習受入実績報告

団体名	受入人数	受入延べ日数
城北高等学校医療福祉科	1	5
ルーテル大学(介護等体験)	1	5
合計	2	10

4. 在宅福祉部

(1) 三和荘通所介護事業所

①手作業で心身共に健康的になって頂きます

手指を使って出来るレクリエーション活動を4種類準備し、更に塗り絵やボール握り運動などの既存の活動を加え、ご利用者へ提供する事が出来た。活動の実施やご利用者からの喜びの声を聞くことは出来たが、今年度は入院者や入所による利用停止者が多い1年だった。入院や入所はADLの低下が原因である事案もあり、手作業だけでなく、機能訓練の内容を強化していく必要性も感じた。

②ケアプランに沿った機能訓練を職員全体で実施します

以前から3カ月に一度各ご利用者を対象としたカンファレンスを実施していたが、現在必要な機能訓練や活動をより具体的に内容を決定し、実施時間もご利用者のデイでの過ごし方に留意し、それぞれに合わせ細かく決定することとした。結果として誰でもわかりやすく実施内容を実行することが出来るようになった。

③実用的な手引きを活用し、無理なく、わかりやすい職場にします

昨年度に引き続き、手引きの改善を常に行うこととした。新人職員への指導に使う度に活用し、使用感を毎回共有し、都度改善を行ってきた。現在では文字数を減らし、見易さを重視し、「A4用紙一枚にまとめる」を共通意識として作成した。今年度も引き続き使用感を共有し改善を続けて行く。

④1日平均24名の利用率を達成します

一日平均21.7人と目標達成は出来なかった。稼働率に換算すると72.3%となった。前年度一日平均20.8人(69.5%)から平均約1人の増加となっている。毎月広報誌を発行し、居宅や地域包括支援センターへ広報活動を行った事で、1月を除いて毎月1名以上の新規の獲得が出来た。今後も広報誌作成と広報活動を継続していく。

ア 月別利用状況

(ア) 全対象者合計利用状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
日数	25	27	26	26	27	26	26	26	26	24	25	26	310	25.8
月間利用者数	57	54	52	57	61	63	63	64	65	60	63	61	720	60.0
月間延利用者数	504	562	530	561	502	580	579	604	593	542	551	589	6697	558.1
1日平均利用者数	20.2	20.8	20.4	21.6	18.6	22.3	22.3	23.2	22.8	22.6	22.0	22.7	21.6	21.6
利用率	67.2%	69.4%	67.9%	71.9%	62.0%	74.4%	74.2%	77.4%	76.0%	75.3%	73.5%	75.5%	72.0%	72.0%

(イ) 要介護度別利用状況（延利用人員）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要介護1	149	148	151	167	180	220	226	253	265	241	247	249	2496	208.0
要介護2	169	209	199	217	174	179	181	189	171	159	161	188	2196	183.0
要介護3	94	111	92	90	71	107	107	96	85	79	62	52	1046	87.2
要介護4	7	3	17	15	14	15	8	9	8	8	7	7	118	9.8
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	419	471	459	489	439	521	522	547	529	487	477	496	5856	488.0

(ウ) 要支援者利用状況（延利用人員）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
事業 対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援1	15	19	12	20	19	25	25	24	20	17	24	24	244	20.3
要支援2	70	72	59	52	44	34	32	33	44	38	50	69	597	49.8
合計	85	91	71	72	63	59	57	57	64	55	74	93	841	70.1

イ 三和荘通所介護事業所における業務の取組み

①送迎

送迎ボード・カードを用いて人数や送迎時間を細やかに考慮した配車を行った。不定期利用のご利用者への対応も行い、スケジュール管理も担当ケアマネジャーと連携しミスのないよう努めた。個別の送迎時間への対応も継続して実施した。助手席への乗降に足台を準備して事故防止に努めた。車両乗り込みの前にご利用者の体温測定を行い、新型コロナウイルス感染対策を行った。

またアルコールチェッカーを使用し、飲酒運転への対応も行った。

②健康チェック

血圧・体温・脈拍を測定してその日の健康状態を把握するのはもちろんのこと、自宅での状態把握にも努めて新型コロナウイルス感染症対策を行った。急変時にはご家族やケアマネジャー等の関係者と連絡をとり、病院受診などの早期対応に努めた。また救急隊への対応として、緊急連絡シートの更新を行った。服薬に関しては、ご本人の名前の確認を行い、誤薬予防を行った。

③レクリエーション活動

感染対策を行った上で荘外活動を一部実施することが出来た。外にお連れすることで、ご利用者の笑顔や会話をより引き出すことが出来た。

④食事

食事前には必ず誤嚥予防のため食前に口腔体操を実施した。また、野菜から食べることが血糖値の上昇を抑えることや汁物から口に入れることが誤嚥防止になるなど啓発を行った。

ご利用者の要望に応えるために、調理委託業者を交えた給食委員会を3か月毎に実施して連携を図り対応した。

イベント食の際には、食事準備のデモンストレーションも実施した。ご利用者からも「より美味しく感じられる」との言葉が上がっている。また、茶

娘姿でのお茶と甘味の提供イベントも行った。

⑤入浴

自宅での入浴を希望されているご利用者のアセスメントを実施し、ケアマネジャー含めた多職種連携にて、希望の実現ができた。また、個浴槽に簡易グリップを装着することで、ご利用者の安全性を向上させた。

入浴介助の自立支援を推進し、介助量が少なくなり、ご利用者から、「自分で出来るようになって嬉しい」といった声が多く寄せられている

⑥機能訓練

ケアプランに沿った機能訓練目標を設定し、多職種によるカンファレンスを実施した。また、バーサルインデックス（BI）を活用して、よりご利用者の現状把握に役立てている。

⑦静養・物理療法・マッサージ

静養スペースの布団を1組減らし、感染対策に努めた。物理療法の順番を決めトラブル防止に努めた。使用箇所の消毒も徹底し、新型コロナウイルス感染症予防に努めた。

⑧生活相談

精神的な不安や経済的な不安など、多くの個別課題（悩み等）を持つ方もおられ、事案により、じっくりと傾聴し、内容によってはご家族や居宅担当者、そのほか関係機関とも適宜連絡・調整を行い、その課題解決や不安の軽減に努めた。

⑨通所介護計画書の作成・実行

計画書への署名捺印の不備をなくすため、ケアプランを事前に頂き、担当者会議時には通所介護計画書を持参し、同時に署名捺印をして頂く工夫を行った。個別機能訓練計画書も同様に行った。また各計画書の職員への周知も重要視し、職員名簿を活用し周知に努めた。

⑩その他

地域ケア会議に介護職派遣を実施した。

(2) グループホーム三和の邑

①接遇のスキルアップを図り、ご利用者、職員が心地よく過ごせるようにします

接遇 5 原則を意識して業務を行ったが、ご利用者からの苦情があり、事業所会議で話し合い振り返りを行い職員の意識向上を目指した。毎朝の申し送りを廃止したためチームワーク目標の復唱は行っていない。

②ノーリフティングケアを実施し腰痛予防を行い現職員に長く心地よく働いてもらえるようにします

スマイル、スライディングボード、スライディングシート、除圧グローブ、リフト浴の導入により腰痛軽減、予防に努めた。

③職員の定着を目指し、ワークライフバランスを意識した環境の整備を目指します

人員不足のため、有給取得目標の年間 7 日は取れなかった職員もいた。プライベートを充実してもらうために毎月連休は取れた。希望休は上限を設けたが、必要に応じて上限を超える事もあった。

④利用率 95%を目指します

ご利用者の体調管理については職員、関係医療との連携を心掛けたが、年

間利用率は91%で目標を達成することは出来なかった。また、ご利用者の方々の高齢化が進み、体調不良にて入院される方もおられたため、今後も体調管理に努めていく。

待機者に対して、現状把握、意向確認を行ったが、すぐに入所される方がおらず期間が開いた時期があった。

ア ご利用者の状況

令和6年3月31日現在

性別	男性 0名 女性 9名
平均年齢	88.5歳 (最高年齢95歳、最低83歳)
認知症の分類	アルツハイマー型認知症 6名 レビー小体型認知症 0名 前頭側頭型認知症 0名 加齢による認知症 3名
認知症の程度	I…0名 IIb…3名 IIIa…5名 IIIb…1名
要介護度	要支援2…0名 要介護3…0名 要介護1…3名 要介護4…1名 要介護2…4名 要介護5…1名 (平均要介護度 2.12)

退所者 4名 退所日 10/5 10/13 10/31 R6.2/1

入所者 5名 入所日 5/8 10/10 11/10 12/20 R6.2/27

ウ 月別行事実績

月	行 事
4月	鯉のぼり見学・食事会(三和荘敷地内)
5月	父母の会(海鮮丼) 健康診断
6月	紫陽花ドライブ(住吉神社)、
7月	七夕(流しそうめん)、茅の輪くぐり、避難訓練(風水害)
8月	スイカ割り、たこ焼きパーティー、大塘神社夏祭り
9月	敬老会(巻き寿司作り)、馬追い見学、外部評価
10月	三和の邑運動会
11月	秋の味覚会、干し柿作り、避難訓
12月	クリスマス・忘年会(サンドイッチ、ケーキ作り)
1月	初詣
2月	節分、バレンタイン(おやつ作り)、避難訓練
3月	ひな祭り、花見

1ヶ月2回・・・訪問看護(たんぼぼ)訪問

エ 会議実績

事業所会議・・・毎月1回 第2水曜日(10:00~11:00)
(1月、2月書面開催)

運営推進会議・・・2か月に1回(奇数月)

5月は新型コロナウイルス感染症予防のため書類にて行った。

オ 勉強会

歯科勉強会・・・月1回

身体拘束廃止及び高齢者虐待防止勉強会・・・3か月に1回

(3) 三和荘訪問介護事業所

① ご利用者の尊厳を大切にサービスを実践します

接遇に関するアンケート調査を実施。ご利用者からの評価は高く、コミュニケーションが良好でヘルパーとの信頼関係が築けていると考える。これからも信頼関係を継続できるよう実施する。

② ご利用者個々の状況に応じ、多職種連携での専門性に基づいたサービス提供を行います

体調不良のご利用者について、ケアマネジャーと密に連絡を図り、病院受診を勧めたり家族に連絡し状況を説明するなど早めの対応を行った。日頃からご利用者の支援については、多職種連携を図り異変の察知や緊急時対応にも備えた。

③ 意見が言いやすく相談しやすい環境や、お互いを認め合える職場環境をつくれます

自身の病気や家族に対する不安などの相談があり、本人に気兼ねさせない方法で対応した。一時は退職も考慮されたが、今回は回避することができた。普段からコミュニケーションを図り、居場所があると認識してもらえたことで考え直してもらえたと思う。

④ 月間援助件数 200 件を維持、継続できるようにし、利用率の安定を図ります

今年度は月間 200 件を超えることができなかった。原因としては、体調不良を訴える利用者が多発し、入院者が増えたことが考えられる。入院している間に新規利用者の紹介も少なく、現在も空席の状態が続いている。ご利用者への健康に関する啓発や、訪問介護員、個々のスキルアップを目指している。

ア ホームヘルパー派遣状況

区分	派遣世帯数		派遣回数				派遣時間			
	要介護	要支援	要介護			総合事業	要介護			総合事業
			身体介護	生活援助	身体生活		身体介護	生活援助	身体生活	
4月	20	17	15	74	12	67	15.16	59.75	11.00	50.00
5月	17	19	14	82	14	57	13.75	66.50	13.25	65.00
6月	18	18	12	86	14	82	12.75	67.50	14.25	59.00
7月	19	17	13	90	10	72	13.00	71.00	9.75	52.50
8月	18	18	14	83	10	76	13.75	66.75	10.00	58.00
9月	20	15	16	73	15	80	14.00	56.50	15.75	53.75
10月	21	15	16	75	13	87	14.75	60.50	13.75	54.75
11月	20	16	19	78	12	76	16.60	61.25	12.50	58.50
12月	20	15	18	63	24	79	14.83	49.25	26.33	49.00
1月	18	15	11	64	20	79	11.33	49.25	20.25	51.00
2月	18	16	11	70	5	85	10.75	55.00	8.41	53.00
3月	14	15	5	58	0	87	3.25	49.25	0.00	49.50
合計	223	196	164	896	149	927	153.92	712.50	155.24	654.00
平均	18.58	16.33	13.67	74.67	12.42	77.25	12.83	59.38	12.94	54.50

イ 熊本市高齢者生活援助事業 (R5年4月～)

○ 実績なし

ウ ヘルパー会議実施・学習会状況

開催日時：毎月第3水曜日 16:00～17:00
(3月のみ15:00～16:00)

参加者：後藤きよみ 松田佳代 松永智子 建石富美子 佐藤朝美

4月	5月	6月	7月
年間方針及び取り組み	防災	業務継続計画 (BCP)	リスクマネジメント
8月	9月	10月	11月
プライバシー保護	権利擁護	共依存	利用状況報告
12月	1月	2月	3月
リスクマネジメント	フレイル	介護報酬改定	一年間の反省

(4) 三和荘居宅介護支援事業所

① 尊厳を守りながら、様々なケースに対応できるよう力を養います

サービスの質の向上のため、ケアマネジャーとして必要な知識・技術を学び、様々なケースに対応できるよう努力した。

特に「ACP」については、「チームの取り組み課題」のテーマとして掲げ、取り組んだ。今後も個々のメッセージを大切にして支援に繋げていく。

「倫理」「接遇マナー」については、自己の実務に関する振り返りを行いながら学び続けていく。

② 個々のマネジメント力の標準化が維持できるよう努めます

「業務継続計画(BCP)」の策定・更新を重点的に行ってきた。円滑に業務が行えるよう、今後も取り組んでいく。

「適切なケアマネジメント手法」では、把握できていない箇所もあり、引き続き、チーム内で学んでいき、自己の実務の振り返りができるよう活用していく。

③ 業務の連携を深め、職員一人一人が働きやすい職場をつくります

週1回、居宅会議の中で、業務の内容・制度の確認など、情報共有を行ってきた。しかし「業務マニュアル」は更新できておらず、今後の改正に伴い見直し・更新を行う。

④ 平均利用者数を1名当たり35件以上確保します

月平均30件～32件で対応することが多かった。

今後も新規相談があった場合は、迅速かつ丁寧な対応を心掛け、ケースに取り組んでいく。

ア 担当者会議実績（件）

4月	11	7月	12	10月	8	1月	16
5月	4	8月	12	11月	10	2月	9
6月	17	9月	11	12月	12	3月	14

イ 要介護別利用者数

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
39	29	21	10	3

ウ 介護予防への移行者数（人）

4月	3	7月	5	10月	4	1月	4
5月	4	8月	5	11月	4	2月	5
6月	4	9月	4	12月	4	3月	4

エ 令和5年度ケアプラン作成年間実績（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所介護	65	59	57	62	65	65	60	61	62	67	65	66	754
地域密着型 通所介護	14	14	13	14	14	15	14	13	15	9	10	11	156
通所 リハビリ	12	12	12	13	14	13	13	13	13	15	15	16	161
訪問介護	40	38	40	43	43	46	45	46	48	46	45	43	523
訪問入浴	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	14
訪問看護	13	13	12	13	12	12	11	11	10	7	8	9	131
訪問 リハビリ	1	1	2	3	3	3	2	3	3	4	3	2	30
認知症対応 型通所介護	2	2	2	1	1	1	1	0	1	1	1	1	14
福祉用具 貸与	71	65	61	70	71	69	65	68	71	72	71	67	821
短期入所生 活介護	15	14	14	15	16	15	13	14	14	13	12	12	167
短期入所療 養介護	3	0	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	9
定期巡回	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9
福祉用具 購入	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4
住宅改修	0	1	0	1	1	1	1	0	0	3	1	1	10
新規契約	4	1	3	4	2	3	3	2	5	1	1	2	31
案件数	94	88	86	93	95	94	91	96	94	92	94	93	1110

(5) 地域包括支援センター

① 重層的支援体制を構築します

相談内容に応じ適切な機関へ繋げ連携して支援を行えるよう、各分野や地域の機関と意見交換・ネットワーク会議を開催し支援体制の整備に努めた。熊本市の障がい分野と包括全事業所が対象の研修会へ参加、主任ケアマネ会で行った薬局や病院等との多職種連携会議、ヘルパー連絡会を新たに立ち上げるなどネットワーク構築に力を入れた。成果として、障がいサービスからの切替や協働しての支援がスムーズになり、これまで双方が不明な点を解決したことで支援がスムーズに行えることに繋がった。また、今年度も自立支援型地域ケア会議を10事例開催した。今年度は対象者の理解を得て事例を提出することで、対象者が助言を受け入れ実行に移しやすいよう工夫し日常の支援に反映することができた。

② 業務の標準化を行うことで生産性の向上を図ります

能力開発シートを活用し業務内容の理解を深めた。苦手な業務を自身で把握し、主任と共有した。一人では満足に行えない業務は、職員間でサポートや協働することで業務の標準化に努めた。また、主担当が不在でも滞りなく対応できることが増え、情報共有をこまめに行うことで生産性の向上を図れた。その結果、緊急対応を除き残業が限りなく0になった。

③ ワークライフバランスを実践し、成長できる環境を整えます

限られたPCや社用車利用についてルールを決め実践した。全員が意識し、意見を出すことで当事者意識を高め、都度ルールを見直し効率化を図った。職員が急な休みを安心して取れるように、職員間の気遣いや業務量の調整を行った。複数担当制を用い、片方だけに負担を掛けないよう確認作業を行った。残業ゼロや積極的な有給休暇取得を皆で意識し協働していくことが、働きやすさや自身の成長に繋がった。

④ 地域住民が主体性を持ち、生活しやすいまちづくりを支援します

地域住民が主体性を持ち集いの場づくりができるよう、活動支援団体数の増加に励んだ。また、専門職派遣及び包括職員が集いの場に出向いての活動支援に努めた。担い手づくりにおいて、認知症サポーターとマッチングするため、熊本西高校と高橋小学校とのコラボ型認知症サポーター養成講座を開催した。地域や行政など関係機関との連携においては、地域で開催されている催し物や会議、行政主催の研修会へ定期的に参加することで顔の見える関係づくりを行った。

ア 介護予防マネジメント

- | | | | | | |
|---|-------------------|---------------------|-------|----------|------|
| ① | 利用者数 | 要支援1 | 1198人 | 総合事業のみ利用 | 465人 |
| | | 要支援2 | 1089人 | 総合事業のみ利用 | 155人 |
| | | 総合事業のチェックリスのみの事業対象者 | | | 82人 |
| ② | 介護予防サービス計画作成の委託状況 | | | | |
| | 地域包括支援センターで作成 | | 2124人 | | |
| | 居宅介護支援事業所に委託 | | 866人 | | |
| ③ | 介護予防サービス計画の委託先 | | 33事業所 | | |

イ 総合相談・支援業務の実施状況

① 相談件数（延べ件数）

項目	相談の形態						合計		
	電話		来所		訪問		新規	継続	計
	新規	継続	新規	継続	新規	継続			
1) 在宅福祉生活に関する事	3	49	1	1	0	19	4	69	73
2) 介護保険に関する事	108	2,315	19	100	17	1,683	144	4,098	4,242
3) 保健医療に関する事	8	356	1	3	0	51	9	410	419
4) 認知症に関する事	7	71	0	7	0	26	7	104	111
5) 権利擁護(虐待関連含む)に関する事	3	223	1	11	0	120	4	354	358
6) 家族問題に関する事	0	14	1	0	0	9	1	23	24
7) 経済的な問題に関する事	0	27	0	1	0	22	0	50	50
8) 居住環境に関する事	4	22	2	2	0	8	6	32	38
9) 在宅高齢者福祉事業に関する事	3	6	0	0	0	4	3	10	13
10) 包括的継続的ケアマネジメント支援業務に関する事	4	220	0	5	0	85	4	310	314
11) その他	10	156	2	6	1	45	13	207	220
合計	150	3,459	27	136	18	2,072	195	5,667	5,862

② 新規相談者の内訳

項目	年齢区分					合計
	64歳以下	65～74歳	75～84歳	85歳以上	不明	
1) 在宅福祉生活に関する事	0	3	0	2	0	5
2) 介護保険に関する事	8	24	70	58	7	167
3) 保健医療に関する事	2	1	2	0	0	5
4) 認知症に関する事	0	4	4	2	1	11
5) 権利擁護(虐待関連含む)に関する事	1	0	1	1	1	4
6) 家族問題に関する事	0	0	0	0	0	0
7) 経済的な問題に関する事	0	0	0	1	1	2
8) 居住環境に関する事	0	1	1	2	0	4
9) 在宅高齢者福祉事業に関する事	0	1	1	1	0	3
10) 包括的継続的ケアマネジメント支援業務に関する事	0	0	2	2	0	4
11) その他	0	1	3	0	1	5
合計	11	35	84	69	11	210

③ 介護保険に関する事（延べ件数）

項目	相談の形態						合計		
	電話		来所		訪問		新規	継続	計
	新規	継続	新規	継続	新規	継続			
① 申請等の手続きに関する事	74	167	23	5	3	156	100	328	428
② 認定内容に関する事	4	132	0	3	0	38	4	173	177
③ サービス内容に関する事	3	104	6	4	0	70	9	178	187
④ 保険料・利用料に関する事	0	21	0	3	0	1	0	25	25
⑤ その他	42	1876	9	66	3	1429	54	3371	3425
合計	123	2300	38	81	6	1694	167	4075	4242

④ 権利擁護に関する事（延べ件数）

項目	相談の形態						合計		
	電話		来所		訪問		新規	継続	計
	新規	継続	新規	継続	新規	継続			
① 成年後見制度に関する事	0	20	0	1	0	12	0	33	33
② 老人福祉施設等への措置に関する事	0	28	0	2	0	26	0	56	56
③ 虐待への対応に関する事	2	127	1	5	0	68	3	200	203
④ 困窮事例への対応に関する事	0	37	0	3	0	10	0	50	50
⑤ 消費者被害の防止に関する事	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥ その他	1	11	0	0	0	4	1	15	16
合計	3	223	1	11	0	120	4	354	358

⑤ 在宅高齢者福祉事業に関すること

項目	電話		来所		訪問		合計			申請数		サービスの適用数	
	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	計	新規	継続	新規	継続
① 高齢者安心支援事業	2	0	0	0	0	2	2	2	4	2	0	2	0
② 高齢者生活援助事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③ 家族介護用品支援事業	1	6	0	0	0	2	1	8	9	1	8	9	0
④ 高齢者及び障害者住宅改造助成事業関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤ ひとり暮らし高齢者訪問事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥ 寝具無料乾燥事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦ 養護老人ホーム入所措置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	6	0	0	0	4	3	10	13	3	8	11	0

⑥ 包括的ケアマネジメント支援業務に関すること

項目	相談の形態						合計		
	電話		来所		訪問		新規	継続	計
	新規	継続	新規	継続	新規	継続			
1) 介護支援専門員の日常業務に関する個別指導・相談	1	62	0	1	0	78	1	141	142
2) 支援困難事例等への個別指導・相談	3	158	0	4	0	232	3	394	397
合計	4	220	0	5	0	310	4	535	539

ウ 権利擁護

- ① 西区権利擁護勉強会 毎月1回 第3金曜日 (まほろば館)
※権利擁護研修会 (リモート開催)
- ② 消費者被害研修 (各研修会、つどいの場で広報活動、ささえりあ新聞)
- ③ ささえりあ新聞で成年後見制度について掲載
- ④ 西区コア会議 13回開催
- ⑤ 西区虐待対応研修
- ⑥ 熊本県高齢者権利擁護基礎研修会(計3回)

エ 包括的・継続的ケアマネジメント

- ① ケアマネジャーの後方支援
 - *主任ケアマネジャーの会での研修会4回(薬局、銀行、病院、公証役場)
 - *日常的個別指導・相談を随時受け付け必要に応じ、同行訪問、巡回訪問、事例検討を行い必要に応じ関係機関と連携を行う。
 - *介護支援専門員と医療機関との研修会(5回)
(薬局との連携、栄養と口腔、エイズ研修、緩和ケア、精神科病院との連携)
 - *西1圏域内「居宅との見守り会議」(2回)
 - *西区包括居宅全体会の研修(1回)(居宅介護支援事業所のためのBCP講座)
 - *自立支援型地域ケア会議開催 10回 (会議室とリモート併用)
 - *課題解決型地域ケア会議の開催 5回
- ② 地域との連携体制作り
 - *老人会の例会、サロン、敬老会への参加
 - *ロコトレ(月2回) *グラウンドゴルフ(10回)
 - *校区社協との定例会(偶数月の開催、三和会 年6回)
 - *民生委員の定例会(月1回)…11回開催(1月中止)
 - *校区自治協議会・・・池上自治協 一水会(城山自治協) 高橋自治協

【運営推進会議】

- * 夢眠グループホーム
- * 夢眠小規模多機能居宅介護
- * グループホーム三和の邑
- * 流泳館
- * グループホーム潤
- * 小規模多機能かがやき
- * 上代成城グループホーム響

オ その他

① 認知症について

- * 認知症サポーター養成講座 熊本西高等学校 264名
高橋小学校 76名
高橋健康クラブ 17名

② 広報誌など広報活動

- 広報誌の発行 4回
- ホームページへの掲載 12回
- 高齢者見守り事業（3校区、町内毎に見守り会議の開催、把握できていない方への戸別訪問）

③ 家族介護者教室

- * ささえりあ講演会 1回（歯医者さんによる「健口＝健康」のお話）

④ 実習

- * 九州中央リハビリ看護学校 実習生 8名
医師会看護学校 実習生 10名

(6) 三和荘ケアハウス

① 認知症の方への対応力を強化します

認知症に対する理解を深めるために、ケアハウス会議の中で、YouTube や以前の勉強会でいただいた資料を活用し、再復習を行ったり、対応についての話し合いを行うことができた。個別のケースについては、他事業所の専門職に相談し、アドバイスをもらい、認知症の方への対応力を向上させた。

② 業務の効率化を図り、環境整備に努めます

ケース記録は、担当を決めることによって、記録を進めていくことができた。環境整備の時間を作ることができたが、鳩よけ対策に時間がかかり予定していた環境整備の時間が不足した。

③ ワーク・ライフ・バランスを意識した休暇取得を図ります

ケアハウス職員が、健康を保ったまま長く仕事を継続できるようにするために、全職員が1カ月に1回、有給休暇を取得できたが連続3日の有給休暇は取得できなかった。

④ 満室を継続させるための広報活動を強化します

ケアハウスで安心した生活をできるだけ長く継続できるように、入居者の身体状態を把握し、小さな変化にも気づき問題の早期発見・早期対応することが

できた。広報活動については、活動に充てる時間を設けることができなかったが、職員や入居者の方に周りに入る方がいないか声掛けを行った。広報活動の方法については、別の方法を検討する。また、インスタグラムなどのSNSを取り入れケアハウスの周知を図ろうとし、掲載用の写真を撮ったがインスタグラム投稿までには至らなかった。

ア 入所者年齢別内訳（令和6年3月31日現在）

	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	合計	平均年齢	最高年齢	最低年齢
男性	0	1	3	3	7	86.5	95	74
女性	1	1	6	9	17	87.9	99	67
合計	1	2	9	12	24	87.5		

イ 在所期間

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上	計	平均 在所期間
男性	1	1	1	4	0	7	4年3か月
女性	4	2	3	6	2	17	5年9ヶ月
合計	5	3	4	10	2	24	5年4カ月

ウ 在宅サービス等利用状況

	ホームヘルパー	デイサービス	デイケア	訪問看護	リハビリ	ショートステイ
男性	2	2	1	1	0	0
女性	10	9	4	3	0	0
合計	12	11	5	4	0	0

エ 入・退去者の状況

入居者 5名（男性：1名、女性：4名）

退去者 5名（男性：2名、女性：3名）

退去理由： 他施設（2名）、死亡（1名）、入院（2名）

オ 待機者の状況

男性2名・女性3名・夫婦2組

カ 週間行事

絵画クラブ(第1・第2月曜)
買い物ツアー(毎週火曜)
書道クラブ(第2・第5水曜)中止(新型コロナウイルス感染症対策)
華道クラブ(第2・第4木曜)
遊びクラブ(月2回)
機能訓練(月3回) 血圧測定(毎月第3週) 映写会(月1回)

キ 月別行事

4月	ドライブツアー(花見)・映写会
5月	健康診断・菖蒲湯・母の日の行事・映写会・認知症勉強会
6月	父の日の行事・映写会・ケアにて食事会・接遇マナー勉強会
7月	七夕行事・映写会
8月	映写会・納涼会(かき氷)中止(新型コロナウイルス感染症対策)
9月	敬老の日の行事・映写会・ケアにて食事会
10月	映写会・バスツアー中止(新型コロナウイルス感染症対策)
11月	映写会・避難訓練(昼間)・認知症勉強会
12月	忘年会中止(新型コロナウイルス感染症対策)・ゆず湯・餅つき(デイサービスにて)
1月	初詣中止(新型コロナウイルス感染症対策)・映写会・接遇マナーの勉強会
2月	節分豆まき・映写会・認知症勉強会
3月	映写会・避難訓練(夜間)・ドライブツアー(花見)

(7) グループホーム出水

①認知症ケアの対応力を身につけます

接遇も認知症ケアの一環として、昨年同様に取り組んだ。毎月会議で接遇目標を設定し、各自振り返りや勉強会を行い、接遇面の見直しに繋げることができた。また、担当職員により接遇チェックシートを再作成し、各自自己チェックを行ったが各個人にうまくフィードバックできなかった。認知症の種類や対応の仕方、パーソンセンタードケアやユマニチュードに基づいたケア、自立支援介護の実践ができるように年4回勉強会を実施し取り組んだ。水分摂取量、食事摂取量、運動、排泄等の介護職でもわかるデータを取りながら根拠に基づいて介護を実践することで、認知症の進行や身体機能の維持に繋げることが出来た。さらにこの取り組みを行うことで、新規入居者は車いすがすぐに外れ歩行が可能となり、さらに眠剤や便秘薬を外すことができた方や、尿意や便意を取り戻せる方もいた。

②ICT化を推進します

介護記録ソフトを導入し、毎日の記録をiPadで入力しており、手書きでの記録をしていた時よりも時間を短縮できるようになった。また、水分摂取量・食事摂取量などのデータを一覧で見ることができるようになり、グラフ化して視覚的にも分かりやすくデータを確認できるようになった。その他の記録や申し送りも電子化することができておりペーパーレス化が進められているが、他部署とのやり取りについては一部ペーパーを使用している。情報共有については、導入したタイムツリー（予定や業務の進捗を、カレンダーを使って共有できるアプリ）を使用し、リマインダー機能を活用しながら忘れることなく予定を把握して業務を遂行することができている。苦手な職員については、入力する方法・項目・内容を手順書化し、使用を徹底することで今では全職員しっかりと使うことができている。さらに進めていくことで、より業務の生産性を上げていきたい。

③求職者から見て魅力ある事業所を目指します

SNSについてはタイムツリーで管理しながら、担当者を決め週1回程度のペースで情報を発信することが出来た。営業活動の一環としてSNSで空き状況を発信し、問い合わせを増やすことが出来た。さらには、認知症ケアとして取り組んでいる自立支援介護を見た関係機関からの紹介も増えた。派遣職員の定着については、入れ替わりがあったが現在4名が定着して更新継続されている。一時的な職員不足はあるものの、有給休暇の取得はできており、年間10日間以上の有給休暇の取得や、結婚に伴う特別休暇の取得も行えた。

④利用率95%維持します

重度化予防や感染症に関する勉強会を行いながら、施設内で感染症クラスターの発生を抑えることができた。7月と12月に骨折や肺炎にて一時的に入院者を出してしまい、空床を作ってしまった。利用率の状況について介護職員間で話し合い、介護職員でもできる営業活動としてFAXを勤務日に1日1回各関係機関に送信することを決めて職員全員で営業活動を行い、7月頃より空き状況の問い合わせが増え、10月には満床とすることができた。また、光熱費等の高騰がみられていたため、毎月の光熱費を周知し昨年度との比較を行うことでコスト意識をもつことができ、光熱費削減が実現できた。

ア ご利用者の状況

令和6年3月31日現在

性別	男性0名 女性8名
平均年齢	86.3歳 (最高99歳、最低65歳)
認知症の分類	アルツハイマー型認知症……7名 レビー小体病………1名
認知度の程度	Ⅱb…3名 Ⅲa…5名 Ⅲb…0名 Ⅳ…0名
要介護度	要支援2…0名 要介護3…4名 要介護1…1名 要介護4…0名 要介護2…3名 要介護5…0名 (平均要介護度2.4)

退居者3名 退居日 8/8 12/14 2/14
入居者4名 入居日 6/5 8/1 8/10 10/6

イ 月別行事実績

月	行事	月	行事
4月	おやつ作り「焼き桜餅」 健康診断	10月	おやつ作り 「芋餅作り」
5月	母の日のお祝い お弁当	11月	紅葉狩り(出水ベランダ)
6月	紫陽花ドライブ(国府公園)	12月	鏡餅作り・ぜんざい会
7月	おやつ作り「冷やしぜんざい」	1月	初詣(施設内にて手作り神社)
8月	かき氷作り	2月	梅見見学
9月	敬老の日お祝い お弁当	3月	桜見見学

*週1回訪問歯科

*3ヶ月毎1回介護相談専門員訪問 中止 *年3回訪問理美容 中止(元職員の理美容ボランティアにて実施)

*国府公民館サロン毎月第4金曜日(13:30~15:00)自粛にて不参加

*9町内自主防災役員会毎月第4金曜日(19:00~20:30)自粛にて不参加

エ 会議実績

事業所会議 毎月第1木曜日(18:00~19:00) *職員会議の後の(木)

運営推進会議 2ヶ月に1回偶数月第3金曜日(10:00~11:00)

※第1回・第2回の運営推進会議は新型コロナウイルス観戦拡大に伴い書類郵送にて意見交換を実施した。

事業所内勉強会等

月	勉強会	月	勉強会
4月	身体拘束委員会・研修	10月	身体拘束委員会・研修
5月	リスクマネジメント	11月	感染症対策
6月	感染症対策 避難確保計画 洪水避難訓練、消防訓練	12月	接遇・苦情対策委員会 洪水避難訓練、消防訓練
7月	身体拘束委員会・研修	1月	身体拘束委員会・研修
8月	接遇・苦情対策	2月	リスクマネジメント
9月	リスクマネジメント	3月	感染症対策 LGBTQについて

認知症勉強会

月	勉強会	月	勉強会
5月	パーソンセンタードケア	1月	認知症の種類や対応について
8月	自立支援介護 伴走型介護	2月	ユマニチュード

(8) デイサービスセンター出水

① 気持ちの良い接遇を徹底します

挨拶、表情、話し方などの基本的な接遇心掛けた。ご利用者のニーズを全て把握することはできなかったが、ご利用者の意見や感想を尊重することはできた。追加利用につながった。

② サービスの質を高めます

ケアプランに基づいた支援を行い、自立支援の視点から援助を行うことができた。ケアの標準化の更なる定義や発展のために、デイ会議や申し送りや情報共有や学びの場を設けることができた。コロナで控えていた外出行事も、場所や時間を検討し、行うことができた。日々かかわる中で得たニーズについても、職員や各関係機関と共有を図り PDCA サイクルを用いて根拠に基づいた支援に努めることができた。

③ 職員のスキルアップに励みます

毎月、デイ会議の中で勉強会を行い、日々の業務を再確認し、職員同士で共有し、スキルアップを行うことができた。

ア 月別利用状況

(ア) 全対象者合計利用状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
日数	25	27	26	26	26	26	26	26	24	24	25	26	307	25.6
月間利用者数	31	31	31	29	28	31	30	31	34	32	31	31	370	30.8
月間延利用者数	306	312	295	280	259	315	324	341	328	317	326	359	3762	314
一日平均利用者数	12.2	11.6	11.3	10.8	9.96	12.1	12.5	13.1	13.7	13.2	13	13.8	12.3	12.3
利用率	76.5%	72.2%	70.9%	67.3%	62.3%	75.7%	77.9%	82.0%	85.4%	82.6%	81.5%	86.3%	76.6%	76.6%

(イ) 要介護度別利用状況（延利用人員）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要介護 1	172	185	172	167	158	166	169	183	178	183	179	203	2115	176.3
要介護 2	57	56	51	48	45	95	85	83	81	66	75	74	816	68.0
要介護 3	9	14	14	8	8	9	22	22	18	19	21	27	191	15.9
要介護 4	20	15	17	17	0	0	0	0	0	0	0	0	69	5.8
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	258	270	254	240	211	270	276	288	277	268	275	304	3191	265.9

(ウ) 要支援者利用状況（延利用人員）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	5	4	4	5	4	22	1.8
要支援 2	48	42	41	40	48	45	48	48	47	45	46	51	549	45.8
合計	48	42	41	40	48	45	48	53	51	49	51	55	571	47.6

(エ) 季節の行事

4月	3/25～3/31 桜花見ドライブ	4/18 出水カフェ		
5月	5/5 端午の節句・菖蒲湯	5/8. 9.13 母の日	5/23 出水カフェ	
6月	6/15・16・17 父の日	6/21 出水カフェ	6/28 七夕飾り	
7月	7/7 七夕行事食	7/21	7/27 出水カフェ	
8月	8/14 夏祭り	8/19 出水カフェ		
9月	9/18～23 敬老の日行事食	9/23 出水カフェ	9/18・19・20・23 敬老会	
10月	10/30 出水カフェ	10/23～28 銀杏見学（県庁）		
11月	11/4 紅葉ドライブ（花岡山）	11/21 出水カフェ		
12月	12/21・23・25～27 クリスマス・忘年会	12/22 ゆず湯	12/20 出水カフェ	
1月	1/4・5 正月料理	1/4～10 初詣	1/7 七草粥	1/11 鏡開き
	1/15～21 出水温泉	1/30 梅見学		
2月	2/3 恵方巻	2/16 出水カフェ		
3月	3/23 出水カフェ			

イ デイサービスセンター出水における業務の取組み

① 送迎

安全に送迎ができるように人員を配置し、ご利用の方が安心して利用できるように状態に合わせた送迎に努めた。認知症の方で自宅での衣類準備や衣類交換など生活介助が必要な方への対応を行った。また送迎時ご自宅の様子を伺い在宅生活が維持できるよう各関係機関との連携に努めた。

② 健康チェック

ご利用の方が安心して利用できるように、送迎時には検温を行ないマスクの着用をお願いした。またご来所されてからは、看護職員を中心に利用日毎に健康チェック、状態の把握を行い、体調不良や急変時に対応できる体制を整えてサービスの提供を行った。血圧等のバイタルチェックで再検の場合は職員間で共有し、適宜適切に対応した。また、必要に応じて病院受診の相談や変化時の報告等を行い、家族・各関係機関との情報交換を密に行うように努めた。

③ 生活相談

ご利用時は自宅での様子や悩み等の把握ができるように、全職員でかわりを多く持ち、ご自宅での生活課題解決のため助言や関係機関との連携を重視した。職員間での情報共有のため日々の申し送りでは内容を濃く、申し送りノートを活用し細かく記載した。

④ 機能訓練・運動器機能向上訓練

職員配置の関係で、今年度も機能訓練加算の算定は行わなかったが、集団体操を通し、訓練を行った。また、個別に訓練を要する方へ、個々の状態に合わせ、心身の活性化に努めた。歩行訓練を兼ねて、外出行事を行うことができた。

⑤ 日常動作訓練

週ごとにレクリエーションを決め、心身の活性化に努めた。個別レクリエーションでは脳トレ、作業療法、歌活動、身体活動等をご利用者自身で選択し、生きがいづくりや日々の楽しみとなるよう支援した。またできる能力維

持のため、レクリエーション以外でも生活リハビリの視点で自立支援に努めた。

⑥ 食事

ご利用者の状態や希望に沿った食形態・代替食等で提供を行えるよう調理師と連携に努めた。デイサービスでの食事を楽しみにしていただけるよう、食事が楽しみになるような工夫や出水カフェ、行事食を行った。ご利用者の希望されるメニューの聞き取りにも力を注いだ。

⑦ 養護

静養室にベッドを確保し状態に合わせ静養時間を設けた。病気の影響、体力の低下や心配がある方は看護職員や各関係機関と相談し、適切に対応した。また、メドマー・マッサージ機など物理療法を活用し、気分転換できるように努めた。

⑧ 入浴

入浴中の病院受診を必要とする大きな事故は無かった。ご利用者の入浴動作維持のため自立支援の視点で、入浴計画書や通所介護計画書と連動し、できる動作やできない動作の見極めを行い、過介助にならないよう徹底した。今年度も月に一度を入浴剤週間とし好評だった。

ウ その他

① 地域との関わり・PR活動

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で白山 7・9 町内サロンへの参加は担当の月以外は自粛させていただいた。また運営推進会議も感染拡大防止のため、6月に書面にてお願いをさせていただいたが、12月は時間を短縮し、開催することができた。

② 書類関係

ケアプランに基づいた目標を立て、援助・評価ができるように努めた。毎月1回評価を兼ね担当ケアマネジャーへ報告を行った。

② 会議等

毎日、朝夕に、ご利用者情報の共有を密に行い職員間のケアの標準化や統一を図った。月1回のデイサービス会議では、実績、ご利用者情報の共有、行事の確認、法令や介護保険についての学び、接遇、利用率向上の学び、認知症の勉強会などを行った。法人内研修は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出水事業所内にてリモートで実施した。リモートは職員会議でも活用したが、移動時間が無くなるため効率的で、生産性向上に繋がった。

(9) 三和苑デイサービスセンター

① ご利用者の希や思いに寄り添います

関わりを通して、望みや思いを推し量るよう努めてきた。職員間での話し合いを進めてきたが、特に認知症の方へのアプローチに苦戦することもあった。だが、デイサービスの利用の定着、安定した生活の維持につながっている。出来ることは限られているかもしれないが、これからも寄り添うケアに努め、在宅生活の維持のサポートができればと思う。

② 環境整備を見直し「ムリ・ムダ・ムラ」をなくします

ユマニチュードの関わり方を常に意識したケアを行い、パーソン・センタードケアについて学び直す。「見る・触れる・立つ・話しかける」の基本を大切に、ご利用者の機能維持や心身の回復・維持へと繋がった。認知症利

利用者に対するケアで困難な場合は、早期に話し合いを設け、尊厳を守ることが意識できたのではないかと思う。言葉でのコミュニケーションのみだけではなく、まだまだ不十分ではあるが、相手を思う気持ち、寄り添う気持ち、人間力、ケア力向上に努める等、常に目標を持ち続けることが、ご利用者満足度向上につながると感じた。勿論、知識や技術の向上も必要だが、精神性に趣を置く支援を忘れずに今後も続けたい。

③業務負担の軽減を図ります

各業務の内容を再検討、ご利用者に合わせた介護方法を見直しながら、情報の共有を行った。(デイ会議・朝夕の申し送り時)安全に、統一したケアを行う事で、問題の解消へと繋がるのが職員の負担の軽減にも繋がった。会議でリスクの検討を行う事で、問題の早期発見・解消にも繋がった。ご利用者、全職員(腰痛予防、運動不足解消)を交えラジオ体操も継続している。職員は、リスクマネジメントに心がけ、その日のご利用者の心身状態を把握し、状態に合ったケアを行い、事故、転倒が起きないように努めた。ヒヤリハット32件、事故(インシデント)は、1件となった。新型コロナウイルス対策の業務を継続している中で、定期的に話し合いをしながら今後も感染対策を継続していく。

④前年度以上の利用率の向上を目指します

寄り添うケアを実施し、関りを重点的に考え、利用者満足度の向上を視野に入れたケアに繋がった。ご利用者の安定した利用の定着と認知症に伴う問題の解消に努めた。人によってそれぞれ違う居心地があり、人と人の触れ合いが精神的作用を生み、様々な感情がでてくる。感情へ働きかけること、ユマニチュードの実践、傾聴することで職員との関係づくりができた。プランを立て実行し、上手くいかなかったらまた再検討し、改善に繋がるまで試行錯誤を繰り返し、ケアが定着するまで取り組んだ。新たなアクティビティ活動を取り入れる事で既存のサービスの充実、意欲の向上を図った。このことが、ご利用者の心身の活性化と満足度へと繋がり、また、職員のマンネリの防止・モチベーション維持にも繋がった。

ア 月別利用状況

(ア) 全対象者合計利用状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
日数	25	27	26	26	27	26	26	26	27	24	25	26	311	25.9
月間利用者数	47	46	47	45	47	47	50	49	47	47	41	45	558	46.5
月間延利用者数	599	665	640	627	614	592	616	645	626	576	500	622	7322	610.2
一日平均利用者数	24.0	24.6	24.6	24.1	22.7	22.8	23.7	24.8	23.2	24.0	20.0	23.9	23.5	23.5
利用率	79.9%	82.1%	82.1%	80.4%	75.8%	75.9%	79.0%	82.7%	77.3%	80.0%	66.7%	79.7%	78.5%	78.5%

(イ) 要介護度別利用状況(延利用人員)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要介護1	258	258	241	251	257	247	262	266	274	244	192	236	2986	248.8
要介護2	171	224	230	217	220	237	222	208	181	164	142	191	2407	200.6
要介護3	91	92	77	71	55	55	49	65	55	42	28	29	709	59.1
要介護4	29	29	34	33	35	16	38	62	75	76	76	93	596	49.7
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	549	603	582	572	567	555	571	601	585	526	438	549	6698	558.2

(ウ) 介護予防対象者利用状況（延利用人数）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
事業対象者	8	9	10	9	7	7	6	7	6	9	10	10	98	8.2
要支援1	25	36	34	38	29	20	18	18	16	22	17	14	287	23.9
要支援2	25	26	24	17	18	17	27	26	25	28	45	59	337	28.1
合計	50	62	58	55	47	37	45	44	41	50	62	73	624	52.0

イ 三和苑デイサービスセンターにおける業務の取り組み

① 送迎

ご利用者の心身の状態や、ご家族の意向を考慮しながら、安全で快適に送迎できるように努め、効率よく配車し時間の調整を図りながら送迎を行った。乗車前の検温、消毒、換気を行う。

(送迎地域・・・城山、中島、池上、高橋、小島、松尾、春日、川尻、南高江、白藤の各校区)

ご家族にも協力を求め、乗車時の検温、消毒、換気、マスク着用の徹底を行うことで新型コロナウイルス感染症に対しての対応策を行う。

② 健康チェック

血圧・体温・脈拍を測り、その日の健康状態を把握して日中の様子を観察した。異常がある場合は早期対応を心がけ、ベッドで静養したり、急変時には病院受診する等の処置を行った。

③ 運動器機能向上訓練・機能訓練

ストレッチ（セラバンド、タオル体操は道具を使う為中止）、平行棒、バランスマット、マシーン、TV体操、散歩による上下肢運動等それぞれに応じた訓練を行い、身体の筋力と柔軟性の維持、向上を図った。また、頭の体操や作業療法も取り入れ、心身の活性化に繋げた。城山公園の散歩も継続して行う。散歩の参加人数も多くなり対応策を考え安全や安心に繋がりが行えた。

④ レクリエーション・余暇活動

心身の活性化を図る目的として趣向を凝らした活動を行い、ご利用者に飽きのこない楽しい活動になるよう行った。また活動を通じて交流も図った。密にならないようレクリエーションを大幅に変更し、試行錯誤しながら行う。季節の行事では、その月に応じた活動を行うが、花見ドライブも状況を見て判断し、自粛せざるを得なかった。個別のレクを行い、密を避けた。また、気候をみながら外での日向ぼっこと季節に応じたレクや余暇活動を行った。（梅、桜、藤の花、紅葉ドライブ・父母の日・夏祭り・敬老会・もちつき等）

⑤ 食事

食前の口腔体操を行い（なるべく発声は控える）、手洗い、手指消毒、パーテーションの設置をし、個々の心身状態や嗜好に応じた食形態を提供し、嚥下や食事量にも注意し、誤嚥がないよう見守りに努めた。おやつ作りも月1回行った。食事形態の検討や注文のミス等がなくなるよう検討し対応に努めた。

⑥ 入浴

湯あたりや転倒、容態急変等に注意し、安全に快適に個々の心身状態に応

じてその人に合った入浴介助を行い、清潔保持に努めた。また、密にならないよう配慮し、消毒を行いながら実施した。湯あたりも2件発生した。

⑦ 養護・物理療法・マッサージ

ベッドや畳の上でゆったり心地良く休めるように環境を整え、マイクロ波やメドマ、マッサージ機等の物理療法を行った。また、身体のマッサージを行い、首、肩、腰等、筋肉をほぐし安楽を図った。

⑧ 相談

個々のご利用者が抱えている悩みについて傾聴し、問題がある場合はご家族、居宅や包括と連携して早期の問題解決に努めた。

⑨ 事務・書類等の処理

介護保険請求は実績・単位数等をよく確認して行い、他事業所との連携でミスがないよう行った。介護計画書の作成は担当者会議に参加した職員が作成し、ケアプランとして各職員が情報を共有し、現場で反映するように行った。また、他の書類も役割分担をして、各自の責任のもと書類を作成した。職員の事務的な負担を少しでも軽減する為、ご利用者となるべく関わる時間を設ける為、パソコンでの作業を少しずつ取り入れてきた。書類の整理にも時間を要した。

⑩ その他

朝夕にミーティングを行い、その日の日程や役割の確認や、問題点や改善点などを全員で話し合い、情報を共有してチームワークによるスムーズな業務の遂行と問題解決に繋げた。役割の細分化を行い、ミスの防止に努めた。また、三和苑の理念である安全・安心・信頼を伝え、職員一人ひとりの介護サービスの質の向上を考える機会となった。また、新型コロナウイルス感染症予防対策（換気、マスクの定着、手指消毒、共有部の消毒）を徹底した。現在もボランティアは、お断りしている。

今後は、ボランティアの受け入れも行っていくが、その時々状況次第で対応策を考えていく。

5. 事務部

① 接遇教育の充実を図り、接遇の向上を目指します

新人教育を実施し、教育・指導を通して自分自身の接遇について見つめなおすことができた。また、施設の窓口として、施設に好印象を持っていただけるように、常に笑顔での挨拶を心掛けた。

② 業務プロセスを見直し、生産性向上に努めます

給与システムの移行に向けて、データ移行や操作方法の確認を行いながら、3月に移行することができた。当初の考えよりも移行に時間がかかってしまった。また、新しく導入した明細配信のテストも終え、今後はペーパーレス化や業務効率の向上にも期待ができる。

③ 求職者から見た法人イメージの向上を図ります

ホームページの更新頻度を上げ必要な情報を発信したり、ブログを立ち上げるなど求職者から見た法人イメージの向上に努めた。就職説明会に参加した際には、特色や取り組み内容など、分かりやすい資料を作成し配布を行った。また、SNS等を活用し求職者と情報交換を小まめにとるように努めた。

④法人・事業所の経営状況を的確に把握し、全職員に分かりやすく周知していきま

す
収入及び支出の状況を四半期ごとに年4回全職員に周知し、経営参画の意識レベルの向上に努めた。令和4年度は新型コロナウイルスのクラスターも発生してしまい、収支バランスの改善には至らなかった。

6. 災害対策・安全衛生管理・設備保守点検

目標	具体的目標	項目	拠点	実 績												備考				
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
災害対策	① 防災教育	①防災教育	全体	4/27																
	② 防災訓練	①火災 ②地震 ③洪水及び土砂災害 ④避難誘導 ⑤消火器具の点検 ⑥避難経路の確認 ⑦避難場所の確認 ⑧避難用具の確認 ⑨避難訓練の振り返り ⑩避難訓練の振り返り ⑪避難訓練の振り返り ⑫避難訓練の振り返り	全体				9/25											夜間：3月 3/28		
安全衛生管理	① 浴場機器管理	①浴場機器管理	三和荘	4/25				7/9	7/9	7/9		10/27						1/21		
		②井戸水衛生管理	三和荘	4/20	5/8	6/8	7/13	8/7	9/13	10/2	11/6	12/5	1/11	2/7	3/8					
		③給排水設備管理	三和荘	4/20	5/8	6/8	7/13	8/7	9/13	10/2	11/6	12/5	1/11	2/7	3/8					
		④電気安全管理	三和荘	4/4	5/5	6/8	7/8	8/5	9/5	10/5	11/4	12/5	1/6	2/3	3/4				9/17:総合点検	
		⑤定期清掃	三和荘				7/14					11/28								
		⑥消防設備	三和荘 出水			6/22	7/10						3/30							機器点検 総合点検
	設備保守管理	② 建築設備	①建築設備	三和荘	4/6			7/5					10/17							
			②特殊建築物定期検査(1回/3年毎)	三和荘																
			③防火対象物	三和荘				7/5												
		④ エレベーター設備	①エレベーター設備	三和荘 出水	4/11 4/12			7/21 7/14					10/16 10/17				1/16 1/31			
②リフト設備			三和荘	4/11	5/15	6/14	7/21	8/18	9/12	10/16	11/14	12/21	1/16	2/16	3/21					保守点検 法定点検
③空調設備			三和荘	4/25			7/27						1/25							保守点検
⑦ 浄化槽維持管理		①浄化槽維持管理	三和荘	1/17	2/18	1/16	5/18	1/18	4/19	2/16	1/21	4/18	4/19	2/19	4/18					
		②法定検査	三和荘																	
		③機器点検	三和荘 出水		5/22	6/29	7/27				11/15	12/22	1/25							保守点検
⑧ 厨房機器点検	①厨房機器点検	三和荘 出水						9/28											保守点検	
⑨ 防災カーテン	①防災カーテン	三和荘 出水																	保守点検	

7. 職員研修の状況

(1) 法人内研修

令和5年度

【法人内研修】

実施日	研修内容	参加人数
R5.4.27	取組内容発表・防災教育・接遇マナー研修	59名
R5.5.25	食中毒について・令和4年度決算報告・経営面で今できること(グループワーク)	63名
R5.6.22	事故発生防止・「経営面で今できること」フィードバック・地域交流委員からの報告	56名
R5.7.27	「身体拘束とは」「その言葉かけ大丈夫！スピーチロックを見直す勉強会」グループワーク	51名
R5.8.24	高齢者の権利擁護 動画研修（新型コロナウイルス感染予防のため全体研修中止）	94名
R5.9.28	「心肺蘇生・AED」動画研修・「口の健康を守るために」（慶齒科医院・難波先生）、「全身の病気とお口の関係」施設長	47名
R5.10.26	リスクマネジメント（動画・個人ワークとグループワーク） 接遇について振り返り	56名
R5.12.21	身体拘束の適正化について・介護保険の総合事業について	56名
R6.1.25	令和5年度取組発表	54名
R6.2.1	令和6年度取組発表	57名
R6.2.1	令和6年度取組発表	60名
R6.3.28	運営方針・事業計画 予算 ・ 人材育成定着について（在宅管理副部長・和泉）	54名

【新卒者採用時研修】

実施日	研修内容	対象職員
R5.4.3	辞令交付・オリエンテーション・法人理念・就業規則・ビジネスマナー・医療知識 対応・感染症・救急法・急変対応	・熊谷 ・田崎 ・山口
R5.4.4	高齢者虐待・身体拘束・地域包括ケアシステム・接遇・コミュニケーションスキル・認知症・チームワーク	
R5.4.5	介護の考え方・自立支援・リスクマネジメント・生産性向上	

(2) その他の研修

【特別養護老人ホーム三和荘】

日付	研修名	参加者名	職種
4月27日	施設介護支援専門員研修会	出口 美恵	施設管理部長
7月10日	医療的ケア教員研修	川辺 真由美	看護職員
7月15日	摂食嚥下障害の基本的知識と栄養管理・食支援と摂食嚥下リハビリテーション	安富貴子	管理栄養士
8月23日	喀痰吸引等研修・基本研修（～10月4日）	永田 健司	介護職員
8月31日	褥瘡の評価と褥瘡のケアについて	大川洋江	看護職員
9月6日	熊本県老人福祉施設メンタルヘルス研修会	宮内 麻衣	介護職員
9月7日	喀痰吸引等研修・基本研修（～10月19日）	沢田 誠	介護職員
9月8日	医療的ケア教員研修	村田 育美	看護職員

【特別養護老人ホーム三和荘】

10月3日	喀痰吸引等研修・基本研修（～11月14日）	渡辺 千夏	介護職員
11月1日	喀痰吸引等研修・基本研修（～12月3日）	尾崎 竜一	介護職員
11月11日	栄養ケアプロセスの基礎を学ぼう	安富貴子	管理栄養士
11月16日	喀痰吸引等研修・基本研修演習（～11月17日）	永田 健司	介護職員
11月16日	喀痰吸引等研修・基本研修演習（～11月17日）	沢田 誠	介護職員
11月16日	喀痰吸引等研修・基本研修演習	森山 匠	介護職員
11月21日	県老協職員研究大会	出口 美恵	施設管理部長
11月21日	県老協職員研究大会	串山 靖明	介護職員
11月21日	県老協職員研究大会	高瀬 直人	機能訓練指導員
11月21日	県老協職員研究大会	宮坂 莉奈	介護職員
12月4日	喀痰吸引等研修・基本研修（～1月29日）	宮内 麻衣	介護職員
12月12日	令和5年度熊本県老人福祉施設看取り介護研修会	大川洋江	看護職員
12月12日	令和5年度熊本県老人福祉施設看取り介護研修会	村田育美	看護職員
1月11日	喀痰吸引等研修・基本研修（～2月22日）	串山 靖明	介護職員
1月16日	喀痰吸引等研修・基本研修演習	宮坂 莉奈	介護職員
1月16日	喀痰吸引等研修・基本研修演習（～1月17日）	渡辺 千夏	介護職員
1月16日	喀痰吸引等研修・基本研修演習（～1月17日）	尾崎 竜一	介護職員
2月26日	喀痰吸引等研修・基本研修演習（～2月27日）	宮内 麻衣	介護職員
2月26日	喀痰吸引等研修・基本研修演習（～2月27日）	串山 靖明	介護職員
2月27日	介護業界のDX化熊本の介護業界に改革を～働きやすい職場・生産性向上を目指して～熊本市老人福祉協議会職員研修会	高瀬 直人	機能訓練指導員
2月27日	介護業界のDX化熊本の介護業界に改革を～働きやすい職場・生産性向上を目指して～熊本市老人福祉協議会職員研修会	尾崎 竜一	介護職員
3月6日	喀痰吸引等研修・基本研修（～4月24日）	山本 由美	介護職員
3月14日	認知症介護基礎研修	濱田 大陽	介護職員
3月21日	認知症介護基礎研修	april tun	介護職員
3月25日	認知症介護基礎研修	KYUKYU WAI	介護職員
3月28日	喀痰吸引等研修(実地研修)	永田 健司	介護職員
3月29日	認知症介護基礎研修	THIN THIN SOE	介護職員

【三和荘居宅介護支援事業所】

日付	研修名	参加者名	職種
4月24日	熊本市予防プラン研修会 ①	橋本順子	介護支援専門員
5月17日	特定事業所加算に伴う 他法人居宅介護支援事業所との合同勉強会	橋本順子	介護支援専門員
5月17日	特定事業所加算に伴う 他法人居宅介護支援事業所との合同勉強会	本田久美	介護支援専門員
6月12日	熊本市予防プラン研修会 ②	橋本順子	介護支援専門員
7月25日	R5年度自立支援型ケアプラン作成に向けたリハビリテーション専門派遣事業研修会	橋本順子	介護支援専門員
7月25日	R5年度自立支援型ケアプラン作成に向けたリハビリテーション専門派遣事業研修会	川上峰子	介護支援専門員
8月9日	包括・居宅向け精神保健福祉研修会	橋本順子	介護支援専門員
8月9日	包括・居宅向け精神保健福祉研修会	本田久美	介護支援専門員
8月15日	R5年度西1圏域HIV/AIDSに関する研修会	橋本順子	介護支援専門員
8月15日	R5年度西1圏域HIV/AIDSに関する研修会	本田久美	介護支援専門員
9月6日	特定事業所加算に伴う 他法人居宅介護支援事業所との合同勉強会	橋本順子	介護支援専門員
9月6日	特定事業所加算に伴う 他法人居宅介護支援事業所との合同勉強会	本田久美	介護支援専門員
9月6日	第1回熊本県高次機能障害支援センター研修会	橋本順子	介護支援専門員
9月6日	第1回熊本県高次機能障害支援センター研修会	本田久美	介護支援専門員

【三和荘居宅介護支援事業所】

9月28日	西1・5圏域合同 緩和ケア研修会	橋本順子	介護支援専門員
9月28日	西1・5圏域合同 緩和ケア研修会	本田久美	介護支援専門員
10月26日	熊本市西区高齢者虐待対応研修会	橋本順子	介護支援専門員
10月26日	熊本市西区高齢者虐待対応研修会	本田久美	介護支援専門員
11月28日	西区全体会議	橋本順子	介護支援専門員
11月28日	西区全体会議	本田久美	介護支援専門員
12月12日	認知症研修会（みつぐまち診療所）	橋本順子	介護支援専門員
12月12日	認知症研修会（みつぐまち診療所）	本田久美	介護支援専門員
12月13日	特定事業所加算に伴う 他法人居宅介護支援事業所との合同勉強会	橋本順子	介護支援専門員
12月13日	特定事業所加算に伴う 他法人居宅介護支援事業所との合同勉強会	本田久美	介護支援専門員
12月13日	令和5年度 熊本市オーラルフレイル予防研修会	橋本順子	介護支援専門員
12月13日	令和5年度 熊本市オーラルフレイル予防研修会	本田久美	介護支援専門員
2月9日	ささえりあ幸田 ケアマネ連絡会	本田久美	介護支援専門員
2月16日	令和5年度熊本市多職種連携研修「暴力・ハラスメントの予防と対応」	橋本順子	介護支援専門員
2月29日	西1・5圏域内合同 ケアマネ連絡会	橋本順子	介護支援専門員
2月29日	西1・5圏域内合同 ケアマネ連絡会	本田久美	介護支援専門員
3月6日	第12回主治医と介護支援専門員との連携セミナー	橋本順子	介護支援専門員
3月6日	第12回主治医と介護支援専門員との連携セミナー	本田久美	介護支援専門員
3月13日	BCP策定等支援事業 オンライン個別相談	橋本順子	介護支援専門員
3月13日	BCP策定等支援事業 オンライン個別相談	本田久美	介護支援専門員
3月13日	特定事業所加算に伴う 他法人居宅介護支援事業所との合同勉強会	橋本順子	介護支援専門員
3月13日	特定事業所加算に伴う 他法人居宅介護支援事業所との合同勉強会	本田久美	介護支援専門員
3月22日	介護保険制度改正	橋本順子	介護支援専門員
3月22日	介護保険制度改正	川上峰子	介護支援専門員
3月29日	令和5年度ケアプラン点検報告・アセスメント研修	橋本順子	介護支援専門員
3月29日	令和5年度ケアプラン点検報告・アセスメント研修	本田久美	介護支援専門員

【三和荘訪問介護事業所】

日付	研修名	参加者名	職種
5月11日	西1圏域在宅サービス事業所交流会	松田佳代	サービス提供責任者・介護職員
5月11日	西1圏域在宅サービス事業所交流会	後藤きよみ	訪問介護事業責任者・介護職員
11月14日	地域ケア会議	松田佳代	サービス提供責任者・介護職員
11月14日	地域ケア会議	後藤きよみ	訪問介護事業責任者・介護職員
3月15日	西1圏域ヘルパー連絡会（ヘルパー7）	松田佳代	サービス提供責任者・介護職員

【三和荘ケアハウス】

日付	研修名	参加者名	職種
8月23日	熊本県軽費ケアハウス協議会「認知症の方の笑顔と、支える人の笑顔」	石原舞子	介護職員
8月23日	熊本県軽費ケアハウス協議会「認知症の方の笑顔と、支える人の笑顔」	米良愛里	生活相談員
8月27日	ジョブメドレーアカデミー動画研修	石原舞子	介護職員
8月27日	ジョブメドレーアカデミー動画研修	米良愛里	生活相談員
3月4日	認知症介護基礎研修	前田千鶴	介護職員

【グループホーム出水】

日付	研修名	参加者名	職種
8月3日	令和5年度熊本県有料老人ホーム等施設長等権利擁護推進研修	瀨本大介	管理者・介護職員

【熊本市西1地域包括支援センター】

日付	研修名	参加者名	職種
4月17日	くまもとメディカルネットワーク研修	和泉翔大	管理者・社会福祉士
4月22日	包括ネット研修「事例検討及び情報交換会」	和泉翔大	管理者・社会福祉士
4月22日	包括ネット研修「事例検討及び情報交換会」	平野公大	社会福祉士・生活支援コーディネーター
4月23日	予防プラン研修 基礎編	伊藤千春	主任介護支援専門員
4月23日	予防プラン研修 基礎編	上妻美穂	介護支援専門員
5月11日	依存症治療に関するスタッフミーティング	矢野鈴奈	保健師
5月12日	障がい者支援センターとの合同研修	和泉翔大	管理者・社会福祉士
5月12日	障がい者支援センターとの合同研修	平野公大	社会福祉士・生活支援コーディネーター
5月18日	広域支援センター研修会	平野公大	社会福祉士・生活支援コーディネーター
5月31日	地域精神保健福祉医療担当者研修会	矢野鈴奈	保健師
6月10日	広域支援センター研修会	平野公大	社会福祉士・生活支援コーディネーター
6月12日	予防プラン研修 応用編	伊藤千春	主任介護支援専門員
6月12日	予防プラン研修 応用編	上妻美穂	介護支援専門員
6月14日	包括連絡協議会	和泉翔大	管理者・社会福祉士
6月19日	包括初任者研修	平野公大	社会福祉士・生活支援コーディネーター
6月29日	窓口研修	伊藤千春	主任介護支援専門員
6月29日	窓口研修	上妻美穂	介護支援専門員
7月25日	リハ職派遣事業	伊藤千春	主任介護支援専門員
7月25日	リハ職派遣事業	上妻美穂	介護支援専門員
8月9日	包括・居宅向け精神保健福祉研修会	平野公大	社会福祉士・生活支援コーディネーター
8月9日	包括・居宅向け精神保健福祉研修会	上妻美穂	介護支援専門員
9月16日	第2回 包括ネット研修	平野公大	社会福祉士・生活支援コーディネーター
9月26日	熊本市精神保健福祉担当者研修会	樋口阿弥子	介護支援専門員
9月29日	西区ふれあい、いきいきサロン研修	村上恵子	生活支援コーディネーター
10月18日	熊本地域リハビリテーション広域支援センター研修会	平野公大	社会福祉士・生活支援コーディネーター
10月18日	熊本県 養護者による高齢者虐待対応現任者標準研修（1日目）	和泉翔大	管理者・社会福祉士
10月19日	熊本県 養護者による高齢者虐待対応現任者標準研修（2日目）	和泉翔大	管理者・社会福祉士
10月24日	地域共生社会推進人材養成研修	平野公大	社会福祉士・生活支援コーディネーター
10月30日	成年後見制度利用促進研修	平野公大	社会福祉士・生活支援コーディネーター
11月1日	熊本県 養護者による高齢者虐待対応現任者標準研修（3日目）	和泉翔大	管理者・社会福祉士
12月7日	地域リハビリテーション指導者育成研修会①	平野公大	社会福祉士・生活支援コーディネーター
12月13日	熊本市オーラルフレイル研修	伊藤千春	主任介護支援専門員
12月14日	熊本市地域包括支援センター連絡協議会研修	上妻美穂	介護支援専門員
1月11日	地域リハビリテーション指導者育成研修会②	平野公大	社会福祉士・生活支援コーディネーター
1月18日	熊本県高齢者権利擁護事例研修会	平野公大	社会福祉士・生活支援コーディネーター
1月24日	ヤングケアラー研修会	村上恵子	生活支援コーディネーター
1月29日	窓口研修	伊藤千春	主任介護支援専門員
1月29日	窓口研修	上妻美穂	介護支援専門員
1月30日	キャラバンメイト研修	平野公大	社会福祉士・生活支援コーディネーター
1月30日	キャラバンメイト研修	上妻美穂	介護支援専門員
2月6日	地域ケア充実・強化に向けた市町村研修会	上妻美穂	介護支援専門員
2月7日	ヤングケアラー研修会	村上恵子	生活支援コーディネーター
2月8日	生活支援コーディネーターテーマ別連絡会議	村上恵子	生活支援コーディネーター
2月15日	生活支援コーディネーターテーマ別連絡会議	村上恵子	生活支援コーディネーター
2月20日	熊本市認知症疾患医療センター及び熊本市認知症初期集中支援チーム	矢野鈴奈	保健師

【熊本市西1地域包括支援センター】

2月21日	熊本県認知症コールセンター事例検討会	上妻美穂	介護支援専門員
2月21日	度熊本地域リハビリテーション広域支援センター研修会	平野公大	社会福祉士・生活支援コーディネーター
2月22日	キャラバンメイト研修	平野公大	社会福祉士・生活支援コーディネーター
2月22日	キャラバンメイト研修	上妻美穂	介護支援専門員
2月25日	地域リハビリテーション指導者育成研修	伊藤千春	主任介護支援専門員
2月28日	熊本市高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施の事業報告会	平野公大	社会福祉士・生活支援コーディネーター
2月29日	熊本地域リハビリテーション広域支援センター研修会	上妻美穂	介護支援専門員
3月11日	介護予防サポーター全体会	村上恵子	生活支援コーディネーター
3月12日	包括の機能強化に向けたICT活用に関する調査研究事業成果報告会	上妻美穂	介護支援専門員
3月29日	熊本市ケアプラン点検結果報告とアセスメント研修	伊藤千春	主任介護支援専門員
3月29日	熊本市ケアプラン点検結果報告とアセスメント研修	平野公大	社会福祉士・生活支援コーディネーター

【事務】

日付	研修名	参加者名	職種
8月9日	令和5年度県老協書記打合せ会の開催について	白石幸大	出納員
9月15日	事務長・事務担当者研修会「補助金・助成金の活用について」	白石幸大	出納員
10月31日	令和5年度第1回オンライン予防研修	白石幸大	出納員
11月7日	令和5年度熊本県老人福祉施設研究大会事前打ち合わせ	白石幸大	出納員
11月14日	令和5年度熊本県老人福祉施設協議会事務長会議（事務作業効率化）（福祉施設のDX化）	白石幸大	出納員
1月23日	熊本市老人福祉施設協議会研修会「過去最大の激変！令和6年度介護報酬改定の重要ポイント」	白石幸大	出納員
1月30日	社会保険事務講習会	平川美桜里	事務
2月6日	福祉人材採用力向上セミナー2023	白石幸大	出納員
2月15日	令和5年度九州老人福祉施設協議会施設長研修会熊本大会	白石幸大	出納員
2月16日	令和5年度九州老人福祉施設協議会施設長研修会熊本大会	白石幸大	出納員
2月28日	令和5年度社会福祉法人労務研修会	黒田修代	事務
3月7日	熊本特養ガイド 制作	萱野瞳	事務
3月7日	熊本特養ガイド 制作	白石幸大	出納員

【第三者委員】

日付	研修名	参加者名
10月26日	令和5年度福祉サービス苦情解決研修会	由川一夫
2月1日	第三委員研修会「苦情解決体制における第三者委員の役割と機能について」「第三者委員の活動について」	由川一夫

【施設長】

日付	研修名
5月29日	熊本県社会福祉法人経営者協議会令和5年度経営研修会
8月4日	災害等に備えた危機管理～「キキクル」の活用
8月23日	認知症の方の笑顔と支える人の笑顔
8月30日	令和5年度社会福祉法人制度改革対応セミナー
9月7日	賃金改定と70歳就業の雇用管理等について
11月21日	令和5年度熊本県老人福祉施設研究大会
1月22日	令和5年度熊本市施設管理者向け高齢者権利擁護推進研修

【施設長】

1月23日	熊本市老人福祉施設協議会総会施設長研修会「過去最大の激変！令和6年度介護報酬改定の重要ポイント」
1月26日	令和5年度九社連老人福祉施設協議会軽費・ケアハウス部会セミナー
2月5日	社会福祉法人制度改革対応セミナー
2月15日	令和5年度九州老人福祉施設協議会施設長研修会熊本大会
2月16日	令和5年度九州老人福祉施設協議会施設長研修会熊本大会

実務者研修
船原 雪愛

主任介護支援専門員更新研修
伊藤千春

介護支援専門員更新研修
矢野鈴奈 井手文子 山形孝子

介護支援専門員実務研修
尾崎竜一